

ノルウェーを代表するもう一人の巨匠、日本初回顧展。



The Garden of Growth

2026 **11.21** SAT — 2027 **1.31** SUN

休館日／月曜日[ただし11/23、1/11、1/25は開館]、11/24、12/29-1/2、1/12

開館時間／10:00～18:00(金曜日～20:00) *入館は閉館30分前まで

主催／東京ステーションギャラリー[公益財団法人東日本鉄道文化財団]、産経新聞社

特別協力／DNB貯蓄銀行財団

企画協力／コーデ・ベルゲン美術館

後援／ノルウェー大使館

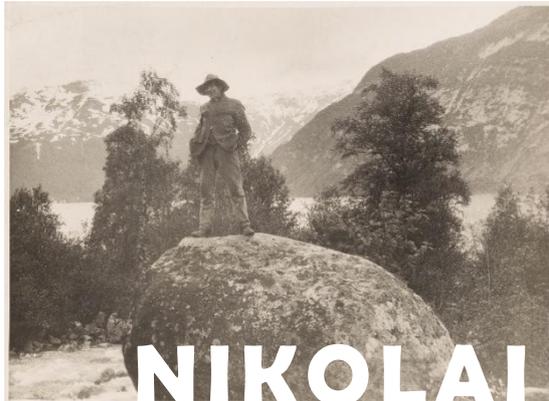
制作協力／S2

TOKYO STATION GALLERY

東京都千代田区丸の内1-9-1(JR東京駅 丸の内北口 改札前)

<https://www.ejrcf.or.jp/gallery/> Tel. 03-3212-2485

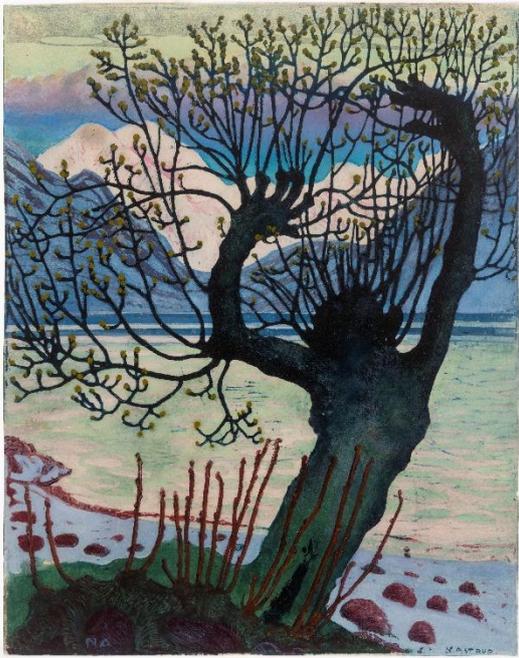
ニコライ・アストルップ(ペール・クラーム撮影、1921年頃、個人蔵) Photo: Per Kramer



NIKOLAI ASTRUP

ニコライ・アストルップ

先行プレスリリース

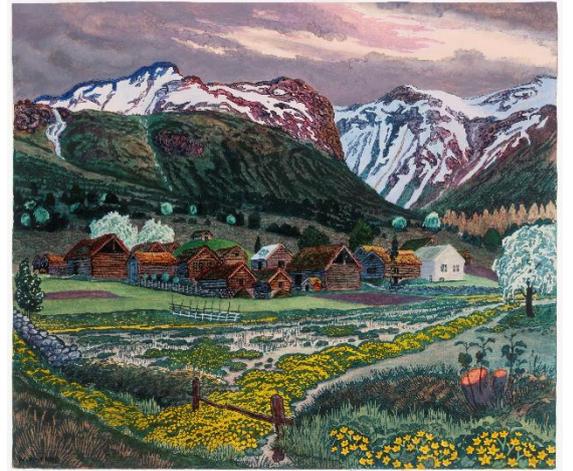


3

4

ニコライ・アストルップ(Nikolai Astrup/1880-1928)は、20世紀初頭のノルウェーで最も傑出した画家の一人として、近年、世界的にも評価が高まっています。雄大な自然に囲まれたノルウェー南西部、ヨルステル湖畔で育ったアストルップは生涯のほとんどをこの地で過ごし、季節ごとに変化する風景を描きました。白夜の空に炎が揺らめく幻想的な夏至祭の夜、手仕事のぬくもりを感じる日用品に彩られた室内、画家であり園芸家とも呼べるほどの情熱をもって自ら育てたルバーブなど庭の植物たち。ノルウェーの自然に溶け込み、内部からその豊かな世界を描き続けたアストルップの絵画は、自然の神秘を体現するかのような奥深い魅力で見ると見る者の心をとらえ、広大な風景の中へと誘います。本展では、油彩画に加え、アストルップがとりわけ卓越した仕事を残した木版画の作品もご覧いただけます。日本の浮世絵版画にも影響を受けながら、彼独自の芸術へと昇華させたアストルップの木版画は、その多くが刷りごとに異なる表情をもつ一点ものです。いずれもノルウェーから来日する貴重な作品約130点により、自然の輝きに満ちたアストルップの世界をご堪能ください。

大地に根ざした画家である。私はおそらく、この国で最も



5

- 1 《ルバーブ》1911-21年 油彩、カンヴァス
- 2 《花咲くリンゴの木》1926-27年 油彩、カンヴァス
- 3 《春の夜と柳》1917-27年 多色摺木版、紙
- 4 《祭火》1915年 油彩、カンヴァス
- 5 《リュウキンカの夜》1904-27年 多色摺木版、紙
- 6 《ジギタリス》1920年頃 油彩・木版、カンヴァス
- 7 《揺りかごのある室内》1926-27年頃 油彩、カンヴァス

すべて DNB 貯蓄銀行財団/コーデ・ベルゲン美術館蔵
Photo: Dag Fosse / Kode

広報に関するお問い合わせ
東京ステーションギャラリー学芸室
Tel. 03-3212-2763

6



7

